

<図・写真>



<材料・製作方法等>

- ①すのこ板と角材でクラシックギターのボディを収める（ベース部）。
- ②アーム部の軽量化のためにドリル等で肉抜きを行う。
- ③アームとベースを蝶番でつなぐ。
- ④アームを押し出すと元位置に戻る力が働くよう、アームとベース間にゴム紐を張る。
- ⑤アーム関節部にギターピックを取り付ける。アーム先端には球型発砲スチロールを付ける。
- ⑥ドラム椅子に固定。

<ねらい>

テーブル上で上肢を水平に動かすことのできる生徒が、ギターの演奏（ストローク）に取り組めるようにする。アームをつかんで引くことができなくても、ストロークを繰り返すことが可能。

<指導方法・留意点等>

- テーブル面に球型発砲スチロールが接触する程度に、ドラム椅子の高さを調整する。
- ストロークがなるべく滑らかに行えるよう、ピックの位置や高さを調整する。
- 演奏曲の調性に合わせ、通常のチューニングではなく、オープン C やオープン G などのオープンチューニングを行う。使用後は弦やネック等の負担にならないよう、レギュラーチューニングに戻す。

<指導経過・成果・課題・展望等>

対象生徒はオーボールと紐スイッチを組み合わせたオリジナルのスイッチを使用しており、既に得意としているその動作を生かせるよう設計した。

教師はセッティングだけ行い、活動時にはほぼ介入する必要がないため、生徒の意欲や主体性を正しく評価しやすかった。

障害の重い子供の器楽は打楽器の演奏が主となることが多いが、旋律楽器特有の音程感や和声に親しむことも大変重要である。一方で、単に旋律楽器を与えるだけでは、不協和音を鳴らす結果にしかならず、教師が多分に介入することになってしまう。子供の興味や意欲、主体性を第一に考え、生じたアクションが均衡のとれた和声や旋律の表現につながるよう工夫が、本校の音楽の学習には必要であるとする。



子供の興味や意欲、主体性を第一に考え、生じたアクションが均衡のとれた和声や旋律の表現につながるよう工夫が、本校の音楽の学習には必要であるとする。